

1歳で発症した小児喘息が小学校。

病気に負けない体力作りのために5歳で始めた空手。

中学高校と症状は徐々に収まる。

大学生になり、中国出身の留学生との交流をきっかけに、気功や呼吸法を知り、学び始める。

大学2年生の夏休み、友達と香港を行き、現地の気功家と出会い、話を聞いて、更なる興味が始めて、半年後から中国へのバッグパッカーを始める。

中国に着いてからは、気功家に師事するも、寺修行しながら、師の仕事である治療院を手伝う。

2年経つ頃、師から伝統の医学を学ぶ気はないか？と勧められ、行くことを決意。師が、中医薬大学への推薦状を書いてくれ、受験し合格。

大学3年時、指導教授から、中国全土の無医村で巡回診療を行うチームへ誘われて、参加。

都会とは異なり、普段から医者に診てもらう習慣がない環境、大学病院では想像も出来ない様々な症状を持つ患者たちを診ていました。

僕は、指導教授から、一人一人のデータをまとめてレポート化を言われ、時折り大学に戻ると、それを発表していました。

卒業まで2年間続き、最後は、学位論文として発表しました。

その症例数は、1万6000人です。

その後、僕は研究院に入り、研究と巡回診療を更に続け、10000人の患者さんを診ました。

研究院卒業後、インドに渡り、1年間アーユルヴェーダの基礎医学コースを受講修了、翌年には、ヨガアシュラムでクンダリーニの呼吸コースを受講修了しました。

インドで指導してくれたドクターからの誘いで、ホリスティッククリニックで、鍼灸医として関わりました。

その後、香港に渡り、創業者一族13名の専属ファミリードクターとして、1年間診療にあたりました。

帰国後、日本での今後の活動のために、治療院やセラピストを巡ったり、医師や看護師との交流をし、自宅での生活習慣が課題と痛感しました。

現在、コロナ禍による自宅待機により、家でのセルフケアの重要性が増したことで、おうちで取り組めるカラダの使い方や気功、呼吸法などセルフケアを発信している。